

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 30 日現在

機関番号：32708

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370188

研究課題名(和文)マンガの要素と用語の分析研究によるマンガ用語法の確立

研究課題名(英文) Establishment of manga terminology by analytical study of elements and terms of manga

研究代表者

伊藤 剛 (Ito, Tsuyoshi)

東京工芸大学・芸術学部・教授

研究者番号：30551519

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：マンガ表現を構成する諸要素と名称について、技法書等の文献を対象にコーパス分析などの調査分析を行い、マンガの諸要素を名指す語彙の水準における諸問題が、図に対する名指しと、概念への名指しの関係の曖昧な二重性に起因することを明らかにした。さらに個々の語彙と図との結びつきの実際をウェブを用いて調査し、要素によって前述の二重性に差があること等を明らかにし、将来における辞書的な整理等に資する成果を得た。

研究成果の概要(英文)：Concerning elements and terms of manga, we conducted a corpus analysis of books and manuals about manga expressions and techniques. The results revealed that ambiguity in technical terms of various elements of manga is attributed to 'duality' of designation between concrete images and abstract concepts that those images indicate. This duality can be exemplified by our online survey of how each term is linked to a certain image. These results will contribute to editing lexicography of terms of manga.

研究分野：芸術一般

キーワード：マンガ マンガ研究 マンガ表現論 ストーリーマンガ 表現技法 用語法 自然言語

1. 研究開始当初の背景

マンガを構成する要素を名指す名称の使用について、次のような問題群の存在が考えられた。

- ① 主要な要素のうちにも、慣習的に呼び習わす語を欠く「名前のないもの」が少なくないこと
- ② マンガ読者、描き手等の成員のうちに、社会的な規約、共通認識とされるような語彙の存在そのものへの懐疑がみられること
- ③ 明確な名称がないか、または個々が異なった名称を用いているが、どうにか意思を疎通させている場面が普通にみられること。

これらを総合して、パロール優位、ラングが極端に弱い状態ということもできるが、こうした問題の存在により、具体的に教育などの場で「紙面に描かれた図形を指して示すしかない」といった不便があり、また研究を含めたマンガに関わる言説の場で、基礎的な語彙の水準での齟齬が生じている。

2. 研究の目的

前項で示した背景を踏まえ、各々の要素について、それがどのように呼び習わされているかについての語彙の収集と整理を試みた。研究の進行とともに、目的が要素に対する名指しが「どのように」行われているかという実態の把握へと深化した。本研究を踏まえた今後の諸研究により資することを志向するものである。

3. 研究の方法

(1) 「マンガの描き方」を読者に教えることを目的とする「技法書」を中心に、評論、研究書、エッセイ等を加えた文献から、「要素」を表す語彙を抽出、インデックスを作成。

(2) 「要素」のうちで、形態が多様性に富む「フキダシ」に着目、物語世界内での「意味作用」および「形状」と名称との相関を調査した。調査にはブラウザ上で動く質問票を使用し、学生を対象とした。

この調査にあたっては、「フキダシ」の形状と、「音声（発話されないものを含む）の様態」として受け取られるものの相関をみるために、さまざまな形状のフキダシを図示したセットを作成し、回答者は図示されたフキダシのセットを見て、質問に合致した番号を選ぶという方法をとった。

調査は学生を教室に集めて一斉に行ったが、ウェブサイト上のページを用い、回答者自身がページを進めて次の質問に移行する方法をとった。(調査日：2014年5月20日)

以下に質問の具体的な内容を示す。

ここでは、フキダシの内部に格納される文

字が「声」として認識されることを前提にしている。

質問……「これらの「声」を表現する際に適していると思うフキダシの形を選択肢（下図に示す）から選んでください。選択肢のなかに該当がないと思った場合は「なし」を選んでください。」



選択肢

1-a 「日常的な会話の声」 1-b 「号令」
1-c 「演技などの、不自然な声」 1-d 「子供などの、かわいい声」 1-e 「外国語の声」
1-f 「神様などの、超自然的な声」 1-g 「電話や機械などの声」

2-a 「ふつうの調子の声」 2-b 「音量の小さな声」 2-c 「ひそひそ声による会話」
2-d 「他人に聴こえないようなひとりごと」
2-e 「語気を強くした声」 2-f 「遠くにいるひとを呼ぶ声」 2-g 「音量の大きな声」 2-h 「悲鳴」

以下、フキダシの機能によってカテゴリ分けを行った。1、2のカテゴリは「肉声型」(『マンガの読み方』夏目房之介ほか、1995での分類名)。

1のカテゴリは、発話する側の主体や発話機会の差異、2のカテゴリは、発話の調子、音量の差異で質問項目を分けた。4のカテゴリは「非肉声型」(同)である。

(3) 技法書と理論書を対象にコーパス分析を行い、「要素」を名指す語彙の出現パターン等を比較した。解析には形態素解析ツール「茶筌」を用いた。

(4) 「要素」を名指す名称が用いられる際、その名称が具体的に図としての「何を」指しているのかを確認する必要から、「要素」を指す名称のうち認知度と、それが紙面上に図示されたものの何を指していると認識しているかの調査を行った。

調査はブラウザ上で動く質問票（下図に画面を示す）を使用し、マンガやイラストを描くユーザーからなるSNS「TINAMI」上に設置したページにて、同SNSのユーザーを中心に

行った。
以下に、アンケートページの一部を示す。

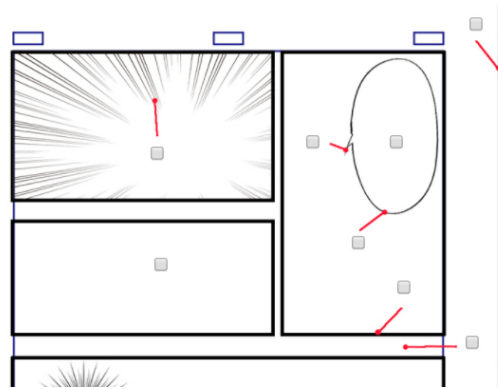


まず質問1として、12個の名称（コマ、枠線、間白、タチキリ、内枠、フキダシ、しっぽ、フキダシ枠、ユニフラ、効果線、集中線）を列挙し「知っている」「知らない」を回答させ、次のページでは個々の回答者が「知っている」と答えたもののみを提示し、同時に紙面上に各「要素（図）」を示した。



質問2以降では、「要素（図）」に対して、それぞれを画面上で選択肢を示し、個々の名称と対応すると回答者が考えたものにつき、チェックボックスをクリックすることで選択をさせた（複数回答可）。

以下、これらのチェックボックスが指し示すものを「要素（図）部品」と呼ぶ。



図中、「要素（図）部品」を指し示すチェックボックスを拡大。

これら「要素（図）部品」には回答者からは見えない形でナンバリングをし、集計を行った。

なお、この調査にあたっては、回答者として、ある程度マンガを読み、描いた経験を持つが、かつ職業的にマンガと関わってはいない集団を対象とした。TINAMIは、こうした「質の揃った」回答者集団の期待できるSNSである。また、年齢、国籍、職業的にマンガと関わった経験の有無、マンガに関係する教育の有無等、回答者に関する属性情報を取得した。アンケート実施期間は、2017年3月11日21時から、同3月21日24時までの10日間とした。

4. 研究成果

- (1) マンガの構成する「要素」を名指す名称一般について、大きく二つの論理的な水準の異なるものに分けられることを示した。この二つの水準とは、図として描くことのできる「形状」の水準と、意味内容を伝達することはないが、意味内容を修飾、分節するなどといった「機能」の水準である。本報告では「形状」の水準でとらえられるものを「要素（図）」と表記している。
- (2) 「要素」のうち、フキダシに着目した調査（マンガ学科学生対象）を行い、「要素（図）」と、物語世界内での発話における「音量」等といった「機能」水準との相関について確認することができた。
- (3) 一方、先行研究の検討からは、フキダシを個別に呼び習わす名称については、それが「形状」「機能」を指す語であるのかは必ずしも明確にされていない事例が見出された。
- (4) 技法書、研究書等からの用語の抽出・分

析を通じ、「要素」を指す語彙のうちに「コマ」「フキダシ」等、ほとんど使われている語彙が一致しているものと、「フキダシ」の付属する突起状のものを指す語に顕著なように、複数の名称が用いられているものがあることが確認された。こと後者においては、名称が各々の目的や機会によって選択され、場合によってはアド・ホックに名指されていることが認められた。たとえば、技法書では、要素を「線で描かれるものであること」とすることを前提に名称を用いるといったことである。このように、「要素」を指し示す名称が、機会や目的、コミュニティに依存するものであることが浮かび上がった。

- (5) 名称の使用が、機会や目的、コミュニティに依存することを確認するため、文献資料（技法書5点、理論書1点）を対象に、コーパス分析を行った。結果、名称を指す語の出現パターンに明瞭な差が認められた。また、この差異はとりわけ「コマ」の語において大きく認められた。
- (6) 名称と「要素（図）」の結びつきについてのアンケート調査の結果では、回答者の回答数と、回答に出現する「要素（図）部品」の数に逆相関があることが見出された。また「コマ」「フキダシ」と「枠線」「フキダシ枠」の回答のばらつきから、同じ名称が、線そのものを指すか、線で枠取られた領域を指すかの区別が曖昧である傾向が確認された。
- 本アンケート結果の個票は、さまざまな解析が可能なものであり、個票の研究者への提供等、将来の研究に資する利用が考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

- ① 木寺良一、Flash マンガの表現、東京工芸大学芸術学部紀要、査読有、第23号、2017、45-55

〔学会発表〕（計1件）

- ① 伊藤剛、木寺良一、松中義大、マンガの要素と用語の分析研究、日本マンガ学会、2015年6月28日、広島市アステールプラザ

〔図書〕（計1件）

- ① 鈴木雅雄+中田健太郎編、伊藤剛、他、水声社、マンガ視覚文化論 見る、聞く、語る、2017、293-334

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 剛 (Ito, Tsuyoshi)
東京工芸大学・芸術学部・教授
研究者番号：30551519

(2) 研究分担者

木寺 良一 (Kidera, Yoshikazu)
東京工芸大学・芸術学部・准教授
研究者番号：90460170

(3) 研究分担者

松中 義大 (Matsunaka, Yoshihiro)
東京工芸大学・芸術学部、准教授
研究者番号：00318908

(4) 研究協力者

池川 佳宏、張 玉瑩（株式会社 寿限無）

笠井 翔（株式会社 言語社）

篠田匡弘（TINAMI 株式会社）